

都市居住再生に資する中間領域組織活動に関する調査

< 調査報告書 >

本一・本二まちづくりの会

1) 活動の背景

桐生市本町一・二丁目地区における「まちづくり」のきっかけとなったのは、地区内に残された蔵に代表される「歴史的建造物の保存活用」に対する市民の目覚めからである。その最たるものが「有隣館」と命名された11棟の蔵群の活用であるといえる。有隣館については個人所有の財産であったが、蔵群の一括市への寄付と地域個性形成事業を導入した改修工事により歴史的資産は「創造する空間」として蘇生され新たな魂が宿った。

時期を同じくして、平成2～3年に群馬県が実施した「群馬県近代化遺産総合調査」、平成5年に実施した「伝統的建造物群保存対策調査」の結果からも、地区内には様々な歴史的資産が現存する場所として、専門家から高い評価を受け、今後の取り組みに対し大きな期待が寄せられるようになり、この地区のまちづくりを本格的に考え、活動するようになった。



本町一・二丁目のまち並み



有隣館

2) 活動の経緯と目的

本町一・二丁目地区のまちづくりについては、上記の背景を基に有志の地区住民が中心となって歴史的建造物の保存・活用を提唱し、賛同者を地区内外から募った結果、当初は200名ほどの市民等がこの地区のまちづくりに関心を持ち、平成12年5月に「本一・本二まちづくりの会」を設立した。その後、様々な取り組みを実施し、地区内外に歴史的建造物の保存・活用の必要性を訴え、平成13年度からは、県費補助事業の「まちうち再生総合支援事業」により、具体的なまちづくりの方向性を模索しているところである。

この会は、旧桐生新町の本町一・二丁目地区において、今日に至るまで連綿として継承されてきた歴史的建造物た文化遺産の保存・活用並びに継承を礎としてのまちづくりを実践することにより、地域の活性化と振興を図り、もって桐生市の発展に寄与することを目的としている。

3) 活動の内容

(1) まちうちウォッチングの開催(平成13年度)

開催趣旨) 本町一、二丁目について、まちの宝物や魅力等を再発見し、まちづくりを進める参考とし、かつ、地区住民の意識を高める目的で開催しました。

ウォッチング開催日時) 平成13年10月21日(日) 午前10時から午後3時まで

参加人員) 55名参加(一般市民及び学生)



運営委員会会議状況



ウォッチング実施状況



班別会議状況

5つの班に分かれ、本町一・二丁目のまちの宝物や魅力等をウォッチングしました。その後、平成13年11月から平成14年2月までの約4ヶ月間、班ごとに打ち合わせ会議を重ね、各班の成果をまとめ上げました。

(2) まちうちウォッチング発表会の開催(平成13年度)

開催日時) 平成14年2月17日(日) 午後1時30分から午後5時まで

会 場) 有隣館 煉瓦蔵(本町二丁目)

参加者) 一般来場者 約200名

コメンテーター) 原 重一 (財)日本交通公社常務理事
元東京都観光政策審議会委員
群馬県まちづくりアドバイザー

森山 亨 日本ファッション協会ファッションタウン計画推進委員
群馬県地域活性化アドバイザー
国土交通省大都市地域リンケージプログラムアドバイザー

三原久徳 (株)アーバン・ウイング主任研究員
元景観アドバイザー(千代田区、前橋市)



発表会場

まちうちウォッチング発表会の当日は、多くの一般市民が来場し、午後1時30分に開会、本一・本二まちづくりの会 森会長のあいさつをはじめ、まちうちウォッチング第1班から第5班の成果発表、コメンテーターの方々からの感想・意見等、その後、会場との意見交換会が行われ、午後5時に盛況のうちに無事終わらせることができました。

また、会場内には、各班の成果のパネル展示も行われ、コンピューター・グラフィックを使つての建物修景の試み、散策コース図、特徴ある建造物や風景、本町一・二丁目まち並み全体の連続写真などが展示され、来場者も興味深く見学していました。



パネル展示状況



各班発表状況



森会長とコメンテーターの方々

(3) 買場通り(市道1-19号線)舗装改修工事に対する提案(平成14年度)

本町一丁目地内に位置する市道1-19号線(以下、「買場通り」という)は、住民の生活道路であると共に「買場紗綾市」が行われる道路としても、来街者から親しまれるようになってきました。しかしながら「買場通り」は、これまでの幾度にも重なる補修工事により路面はカマボコ状となっており、他にも至る所に穴などの欠損箇所が見られるなど、老朽化が進んでいるような現状です。

そこで「買場通り」の改修を、総合的なまちづくり事業に先駆けて、桐生市が社会実験として舗装改修工事を行うこととなりました。この改修にあたっては、沿道住民によりワ-クショップを開催し、その中で道路について色々と議論を重ね、また、「買場紗綾市」での来街者からのアンケート調査の結果等も参考とし、改修における考え方をまとめた改修計画案を桐生市に提出しました。



買場通り(施工前)



買場通り(工事中)



買場紗綾市

ワ-クショップの開催

改修に伴い、沿道住民により「買場通りの改修計画を提案する沿道住民会議」を発足させ3回のワ-クショップを行い、買場通りの改修における提案書を作成しました。

- ・第1回ワ-クショップ 平成14年6月24日(日)開催
- ・第2回ワ-クショップ 平成14年7月14日(日)開催
- ・第3回ワ-クショップ 平成14年8月11日(日)開催



ワ-クショップ開催状況

アンケート調査の実施

買場紗綾市において来街者に対しアンケート調査を実施し、ワークショップの中で改修計画を考えるうえでの参考としました。

買場通り改修についての提案

沿道住民で組織する「買場通りの改修計画を提案する沿道住民会議」ではワークショップの中で検討された改修計画について、桐生市に対し平成14年8月30日に提案書を提出しました。

A. 「買場通りの改修計画を提案する沿道住民会議」が提示した提案の概要

- 1) 買場通りそのものにシンボル性や買場の風情を醸し出すような空間づくりに配慮する。
- 2) 周辺建物との調和から舗装面はレンガ調または石畳調となるようにする。
- 3) 歩行者に優しい空間を基軸に、交通弱者の安全確保に配慮したデザインを検討する。

(4) 「寄合所 しんまちさろん」の開設(平成14年度)

「寄合所 しんまちさろん」は、本町一、二丁目地区のまちづくりを考えるための地元の拠点となるための施設として開設しました。

開所式は10月12日(土)に行われ、本一・本二まちづくりの会をはじめ、地元住民や市関係者、また報道関係者など多くの人達を集め、盛大に行われました。なお、運営については「本一・本二まちづくりの会」が行い、次のような活動を行っていく予定です。



「寄合所 しんまちさろん」

場 所 桐生市本町二丁目1-18 (旧 ふるた文具倉庫)

- 活動内容
- ・ IT機器を介してのまちづくり情報の集積と発信を行う。
 - ・ 歴史資産や文化遺産等を対象にまちづくりの関連資料を「まちづくり情報ライブラリ - 」として整理し、公開を行う。
 - ・ 町並み案内所としての窓口機能を行う。



活動成果展示 1



活動成果展示 2



インタ - ネットによる情報発信収集

(5) まちづくり先進地視察(平成14年度)

まちづくりの先進地である「長野県須坂市」を会員22名が視察しました。

(6) 本町一、二丁目地区のまちづくりのロゴマークの公募(平成14年度)

本町一、二丁目のまち並みに似合う元気の出るマークの一般公募を行いました。

作品については、170点にも及ぶ多数の応募をいただき、「本町一、二丁目らしさを伝えるもの」「マークとしてわかりやすいもの」などの多角的な視点から審査を行い、各受賞作品の選考を行いました。

募集期間 平成14年12月20日～平成15年2月10日

応募総数 170点(155名・1グループ)

作品選考 平成15年2月18日

受賞作品

審査員特別賞(1点)



作品のテーマ

「元気」と「桐生」を合わせGENKIRYU!
明るく元気なまちづくりをイメージしてつくりました

まちづくり会長賞(1点)



作品のテーマ

桐生といえば「はたどころ」その工場であるギザギザ屋根くんが、うちわを持ち「ワッショイワッショイ」とまちが元気になるように応援している。筆書きすることで「和」のイメージを強調「!!!」は活気やひらめきをイメージ

買場紗綾市特別賞(1点)



作品のテーマ

ノコギリ屋根のこうらを持った亀

商店街特別賞(5点)

(7) ロゴマークを活用した製品の作成(平成14年度)

布のれんを作成し、その中に募集した作品の1つをはめ込みました。

布のれんの掲示は、まちづくりに対する住民の意識向上や、住民同士の連帯感を養っていくため、本町一、二丁目地区の商店会にお願いし定期的に店頭に掲げてもらいます。

なお、布のれんに活用する作品は、「まちづくり会長賞」受賞作品となります。

(8) まち歩きマップの作成及び配布(平成14年度)

歴史的まち並みを残す本町一、二丁目と、その周辺に今なお姿を留めている近代産業の足跡を紹介し、我が国の近代化を支えてきた本市の織物産業の歴史とまちを探索するための資料として作成しました。

なお、まち歩きマップについては、市内はのみならず市外の公共施設等にも配布し、広く本町一、二丁目をアピールしていく予定です。

(9) まちづくり会報誌の発行(平成13年度、平成14年度)

本町一、二丁目地区の住民や、まちづくりの会会員に対し、地域の歴史や文化を紹介し、会の活動状況等を周知していきます。

「春秋往来」以下の通り発行しています。

本町一・二丁目地区の歴史や由来などを紹介するものです。

- ・創刊第一号 平成13年 8月 1日発行
- ・新春号 平成14年 1月 1日発行
- ・報告号 平成14年 3月31日発行
- ・第二号 平成15年 3月 1日発行

「しんまち通信」 適宜発行しています。

本一・本二まちづくりの会の活動を報告するものです。

4) 活動の成果

平成5～7年頃においては、学術的調査等が先行する中で、まち並みに対する評価がされたことから、市民レベルでは受け入れ難い傾向にあったが、当地区を象徴する有隣館の活用が積極的に展開されるようになると、次第にまち並みを含めた歴史的建造物に対する認識が高まった。

本一・本二まちづくりの会による各種の活動を通じて、地区住民や他の市民に対して、この地区の重要性をアピールでき、今後のまちづくりに対する期待も大きくなってきている。また、ワークショップ方式を導入したことによって、地区住民が容易に参加できるようになり、生活者の視点からの「活かたまちづくり」が可能になった。

5) 今後の展開

まちづくりを推進する上で重要な点は、住民意識の向上である。この住民意識の向上のための喚起事業を今後も展開し、まちづくりに対する認識を一つにする。そのためには、地区住民が一人でも多く参加できるまちづくり活動体制を確立することが最も重要であり、継続した活動の展開が必要である。

具体的な事業を実施するには、地区住民の合意形成はもとより、他の市民に対しても同じ認識を持ってもらうことが不可欠であり、事業の必要性や位置づけを明確にし、具体的事業の選択や財源措置等についても考察する必要がある。

6) 活動のポイント

活動の人材

まちづくり活動に対しては、地区住民はもとよりその他の市民も事業に参加した。また、地元の大学（群馬大学工学部、足利工業大学、桐生短期大学）や高校（桐生工業高校）の学生や生徒の参加も多い。

この人材は、イベント等の公募や各学校の先生を通じて手助けをお願いした。

学生や他の市民が多く参加したことにより、地区住民の意識が喚起され、地区の再認識が図られた。

活動のための資金調達

会員からの会費、活動補助金並びに県費補助事業「まちなか再生総合支援事業」による事業委託費により活動している状況であるが、今後、自主事業を展開し、会独自の資金調達を図り、運営していく予定である。

活動のネットワーク・支援

まちなか再生総合支援事業を実施している県内16市町が年1回、まちづくり活動の発表会が開催されており、その際には、まちづくり活動団体同士での交流も図られている。また、専門的知識の導入やフットワーク向上を図るべく、地元の大学や高校に対し、本地区を学業のフィールドとして活用してもらう中で活動を支援してもらっている。